

■フランス：欧州最大の太陽光発電所（30万kW）、フランス南西部で運開

地元経済紙によると、欧州最大の太陽光発電所（30万kW）の竣工式典が2015年12月1日にボルドー市に近いフランス南西部の町セスタ（Cestas）で挙行された。所有するのは中小企業のNeoenで、総工費3億6,000万ユーロはインフラ基金8社からの融資で賅った。発電所は260ヘクタール（サッカーグラウンド350面分に相当）の敷地に約100万枚の太陽パネルを使い、年間平均3億5,000万kWhの発電が可能であり、発生電力は売電先のフランス電力会社（EDF）の送電系統に直接送られる。売電価格は105ユーロ/MWh（約13.7円/kWh）で、売却期間は20年間。売電価格は卸市場価格（40ユーロ/MWh以下）と比べるとまだまだ高いものの、プロジェクトが構想された2010年時点の想定価格が300ユーロ/MWhであったことを考えると、近年の太陽光発電価格の急落振りを象徴するものとなっている。ちなみにフランス政府が行った太陽光設備導入のための競争入札では、70ユーロ/MWh台の応札が数件あった。世界的にみると最安値の記録は、1年前にドバイのプロジェクトでサウジの企業Acwa Power社が落札した58.5ドル/MWh（55ユーロ/MWh）となっている。